

読 書

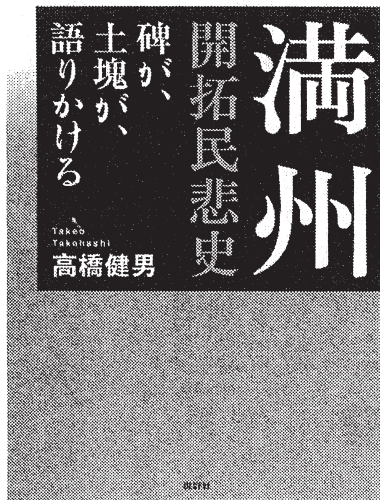
にいがたの 一冊

前作の大著『赤い夕陽の満州にて―昭和―への旅』(二〇〇六年)を総論とすれば、今度の新作はいわば各論である。国策によって旧満州に入植した開拓団二十七万人が敗戦時、ソ連軍

高橋 健男著

の侵攻などで惨劇、餓死、凍死、避難逃亡に追い詰められた歴史については、これまでもおびただしい数の証言や記録が公刊されてきた。しかし本書が読者をとらえて放さないのは、国内と中国で個々の関係者を訪ねて取材した、その生き生きとした臨場感だ。

ある老夫婦は語りつくせ



満州―開拓民悲史

ぬ体験を伝えながら、いつか夕刻になると酒を勧めながら語り続け、しまいには「泊まっていけや」となった。その一方である老人は、取材の申し出を固辞し続けた。ある老婦人は生前つい

に身内にも詳しい過去を語ることもなく世を去り、あの侵略の悲劇を知らない若い孫娘は、生前祖母の口からじかに開拓団の話聞きかかったと悔やむ。この話は老人たちが仮に饒舌に過去を語るよりも、さらに彼らの心に残った傷の深さを感じさせる。

報告のリアリティーをさらに高めているのがおびただしい現場写真だ。数だけではない。例えば最近その存在がようやく紹介されるようになった中国で唯一、建立を許された黒龍江省方正県の日本人公墓は、これまでほとんどの写真が墓碑銘を主とするものだったが、本書はその裏にある中国固有の土まんじゅうを象った納骨のための構築物にもレンズを向けてい

る。開拓団の遭難史でもその惨劇性が際立つ「佐渡開拓団跡事件」(はもともと)ここに入植した佐渡開拓団が避難した後、さらに遅れて東のロシアとの国境近くから到着した各開拓団が遭遇した悲劇だが、その一つに新潟県送出第七次の清和開拓団もいた。著者は昨年夏、

聞き取り、現地訪問で臨場感

新潟の訪問団としてこの地を訪れ、十人の同行者とともに慰霊祭を営んだ。事件の詳細と慰霊訪問の報告も新潟の関係者には貴重な記録となっている。

著者は二年前まで中学校校長として教育界の第一線で活躍してこられた方である。この間、上京の折などに国会図書館で資料を探し続ける一方、中国で現地調査、聞き取りを五回という超人パワーで前著とこの本をまとめられた。あの戦争が終わった時、まだ母親のおなかにもいなかった著者の力作に接して、「918」(中国で言う満州事変)の年に生まれた私は新しい力を贈られた思いだ。

奥村 正雄

(方正友好協会顧問)
■批評社(三一五〇円)

書籍案内

方正友好交流の会が編集した本と会員の関係著書をご紹介します。

* 『風雪に耐えた「中国の日本人公墓」－ハルビン市方正県物語－』

定価 1500 円

この本には、日本人公墓の建立の経軌跡や由来を王鳳山と奥村が、中国養父母公墓を自力で建立した遠藤勇さんの半生を大副敬二郎が、方正県住民の家に住み込み全身全霊で稲作指導に捧げ「日中友好水稻王」といわれた藤原長作さんの一生と、敗戦後八路軍に入り、帰国後日中友好運動に携わり、麻山事件の犠牲者の公墓建立で活躍された金丸千尋さんの半生を大類が執筆、また方正友好交流の会を成立以前から支えた人々の座談会を牧野史敬が司会進行した記録などが収録されている。(当会が編集、事務局に残部あります)

* 『天を恨み 地を呪いました －中国方正の日本人公墓を守った人々－』

奥村正雄 編著 定価 700 円

この本に書かれた文章は、上記の『風雪に耐えた「中国の日本人公墓」－ハルビン市方正県物語』にも収録されていますが、日本人公墓建立の契機を作った残留婦人・松田ちゑさんの息子さんの貴重な体験記も入っています。この本に関しては、直接、奥村に申し込んでください。電話 043-272-9995 FAX 043-272-0214

* 『二つの祖国 ある中国残留孤児の証言』

北澤博史 著

定価 1500 円 (税別)

製作・発行 夢工房

著者の北澤さんは 1935 年長野県赤穂村で生まれ、1940 年両親に連れられ満洲へ。敗戦とともに孤児となる。この本は北澤さんの自伝的な作品で、方正県での当時の様胡や難民となった苛酷な体験を絵と文で描写されています。収録された絵がなんともいえず当時の雰囲気醸し出しています。事務局に申し込んでください。

* 『赤い夕陽の満州にて 「昭和」 への旅』

高橋健男 著

定価 3400 円 (税別)

著者は 1946 年、新潟県見附市生まれ。長年中学の教員として過ごし、校長を経て定年退職。近年アジアに目を向け、歴史や文化を研究。本書は「昭和は終わっていない」という問題意識の下、満蒙開拓という国策とそれに加わった人たちの軌跡を追求した大著です。本書をご希望の方は直接、刊行先の新風社販売部に申し込んでください。電話 03-3746-4648 FAX 03-5414-3494 です。

ありがとうございました

会報6号発行後、カンパをお寄せいただいた方、また新たに会員になられた方々のお名前を記して感謝の意をお伝えします。ありがとうございました。(敬称略、受け付けた順に記載しました。08年12月10日現在)

山本義輝 瀧亀久男 黒岩満喜 福久かずえ 穂苅甲子男 宮田一郎 篠田欽治 原田清治 玉山昌顕 山内良子 牧野八郎 永原今朝男 望月迪洋 清水薫 矢島敬二 田中久子 樗沢仁 鈴木敏夫、山口和子 武田正志 山下くに 延浄寺綱代正孝 師岡武男 北澤博史 石原健一 阿久津国秀 石橋実 風間成孔 小林忠作 杉田春恵 久保祐雄 馬場弘子 高橋かよ子 栗原貞子 山田陽子 中国帰国者支援交流センター 竹中一雄、小畑正子 中村静枝 野田良雄 高良真木 小倉光雄 川口憲、青柳幸司 芹沢昇雄 石原政子 村杉正洋 高橋健男 森川忍 河戸道子 永瀬明子 萩原武太郎 鳩貝清太郎 遠藤勇 神田幸子 (社)日中協会・白西紳一郎 高野茂 福井以津子 矢野光雄 名取敬和 石田和久 小関光二 ロイヤル真珠(株)・加藤幸治 鈴木幸子 平井宥慶 羽賀美代子 新谷陽子 吉田敬子 吉岡稔 馬場永子 鶴沢弘 高木誠一郎 宮下春男 長谷部照夫 阪田健夫 木下貴雄 水野眞行 江見迪子 江見祥典 田宮昌子 石井愛輝

<編集後記>

羽田澄子監督の記録映画『嗚呼 満蒙開拓団』が完成した。来年09年の6月13日(土)から7月末まで、岩波ホール(千代田区神保町)で一般公開されることが決まった。ぜひ、多くの人たちに見てもらい、国策で入り込んだ開拓民たちが、いかに悲惨な状況に追いやられたか、日本という国家が、多くの遺棄された人たちにいかに無情であったか、を知ってほしい。自衛隊のトップに位置する男が、先の戦争を「アジアを解放する戦争だった」というような歴史認識しか持てないという実情、その発言者が戦後世代ということにも驚くが、同時にそれを支持するような状況があることに、いったい戦後教育とは何だったのかと思う。ともかく、そのような「空気」を醸成する状況をいかに打破していくか。戦争体験、旧満州での体験を伝えることの重要性を思う。

当会の前身を支えた石井貫一先生の7回忌が先日行われた。その時出席された遺族の方々、当会参与の牧野八郎、木村直美さんらのお香料全額を、夫人の石井愛輝さんから当会に寄付いただいた。石井先生が、方正の公墓、残留された人々に焦点を当てた映画ができたということを知れば、どれだけ喜ばれただろう。当会の活動が少しでも貢献できたことに、よくやっていると思われたか、それともまだまだこれからだと更に叱咤されたか。石井先生の情熱に応えていきたいと思う。(啓)

《表紙写真撮影・大類善啓》

『星火方正～燎原の火は方正から～』(第7号)

2008年12月20日発行

発行：方正友好交流の会 編集人：大類善啓

Email: ohru@jcast.or.jp

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-6

日本分譲住宅会館 4F

(社)日中科学技術文化センター内 電話：03-3295-0411 FAX：03-3295-0400

郵便振替口座番号 00130-5-426643

加入者名 方正友好交流の会

HP アドレス <http://www.houmasa.com/>